

野の花新聞

No. 12 2011年5月号 「幸せ天使」

みなさま、こんにちは。

野の花の みなかた あきこ です。

もう5月になるというのに、まだコートをしまえずにいます。

暖かすぎたり寒くなったり、毎日の洋服選びにひと苦労・・・

みなさま いかがお過ごしですか？

こんなに気温が揺れ動いていても、木々は新しい葉をつけ、夏鳥たちは次の命を育むために訪れてきます。

私も淡々とまっすぐに生きていきたいです。

さて・・・

密かに小説家や詩人に憧れて、いつかはすごい作品を書く！と、考えていた頃がありました。

三度のメシ（失礼！）より本が好き、劣等感と自尊心がシーソーのように上がったり下がったりする思春期、こっそり「すごい作品」に着手していました。構想だけで終わったものや、超短編や、未完のものがいくつかあります。

思い出すと 恥ずかしくて裸足で逃げ出したくなるような「自信作」なのですが・・・信じていた人々からひどい裏切りを受けて国を追い出された王女が、最後に信じた人からも裏切られ、悲しみのために体を失い、心だけになって森に住む天使になる、という未完のまま放置した「幸せ天使」という作品があります。

彼女は悲しみに沈む人を見ると助けずにはいられず、人々が幸せになると去って行きます。人々は彼女に気づきません。多くの人を幸せにしながら、彼女自身はますます悲しみと孤独が深くなっていくのですね。

今考えると、私は悲しくて寂しかったんだろうなと思います。

気づかれなくてもいい、人を幸せにできる人になりたい、でも、ほんとうは一緒に幸せになりたいと思っていたのではないかと思うのです。

そして、何より悲しかったのは、自分には人を幸せにする力なんてない、と断言する自分がいたことです。

小説家になるなどという恐れを知らぬ願いはもうありませんが、読みやすく、ほっこり温かくなったり、ふっと笑えたりする文章を書けるといいなと思います。

そして、周りにいる人たちと一緒に幸せを育てていきたいなと思うのです。

今では、何の根拠も無いのに「私にはできる」と断言する自分がいるのですから。



みに

何にでも いっちょかみ
とりあえず じゃましようっと
あれ？眠くなっちゃった・・・

